平成２９年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	市政協同
議員名	我妻静夫・岡田健一・古澤孝市・徳中嗣史・金濱元一・早川昇三 南川達彦・鈴木和彦・黒光ひさ
調査実施年月日	平成２９年５月１０日（水）
調査先　自治体名等	愛知県豊田市企画制作部環境モデル都市推進課
調査項目	①環境モデル都市の取り組みについて
調査目的	豊田市が進めている環境モデル都市の取組を見える化し、情報発信していることを調査する。
報告内容 実施したこと	豊田市　基本情報 　人口　422,780 人：　面積　918,32ｋ㎡：　世帯数　163,554 世帯 豊田市では、とよたエコフルタウン～低酸素なまちづくりの推進の状況を調査した。 モデル地区を豊田市が土地を提供し、造成・舗装などインフラを整備し（約８億円）、民間企業が環境技術を展示するスマートハウスや地産地消レストラン、水素ステーションを出展して、官民共働で整備している。 その他の環境施策として、ふるさと納税返礼品の中にＦＣＶ車「ミライ」の一日乗車貸し出しがあり、300 人の応募があり、280 人が乗車している。愛知県では、ミライは平成 28 年度末に約 600 台保有している。購入に対しては､国の補助最大 202 万円に豊田市から個人最大 33,5 万円、事業者最大 15 万円上乗せ補助している。 さらに 2012 年から一人用電気自動車 100 台乗捨て交通サービス（ハーモ）を開始し低炭素かつシームレスな交通の実現をしている。 　最新の環境技術を普及・展開するための出展企業と市内企業の連携拡大方策の検討、低炭素社会の実現に向けた取組の市民へのより一層の PR が課題とのことであった。
感想（まとめ） 本市へ生かせること等	豊田市は環境先進都市を目指し、燃料電池車（FCV）や廃バッテリーを活用した蓄電システムや太陽光発電などを活用して二酸化炭素を削減するスマートタウンを作っており、室蘭市にとって同じ方向を目指す先進都市である。規模の違いや財政力の大きさなど難しい点が多々あるが、豊田市の施策を参考に環境にやさしい都市を目指してゆきたい。